

第7回角田市長期総合計画審議会会議報告書

1. 日時 令和3年9月17日（金）午後5時00分から午後7時00分まで

2. 場所 角田市役所301会議室

3. 出席者（別添出席者名簿のとおり）

（1）角田市長期総合計画審議会委員	20名
（2）策定本部	6名
（3）事務局	6名
（4）角田市第6次長期総合計画策定支援業務委託業者	2名

4. 会議内容（概要）

1 開会

2 委嘱状の交付

新たに審議会委員を委嘱した七十七銀行角田支店長の佐藤和行氏に市長より委嘱状を交付した。

3 会長あいさつ

夕方のお忙しいところ、ご参集いただき大変ありがとうございます。

国勢調査の速報が公表され、2015～2020年の全国の人口は0.7%減に対し、東北地方は4.1%減となっています。ここ最近における人口減少のけん引役は社会減ではなくて自然減に変わってきており、人口減少対策については引き続きしっかりとやっていく必要があると思います。

付加価値の源泉は人であり、人を大事にするような施策づくりが改めて重要であると感じているところです。本日も人に関する議論が中心になるかと思しますので、皆さん、引き続きよろしく願いいたします。

4 市長あいさつ

本日は、お忙しい中、ご出席を賜りまして、誠にありがとうございます。加えまして、皆様方におかれましては常日頃より、市政運営にご理解とご尽力を賜り深く感謝申し上げます。

第7回目となる本日は、前回の皆様からのご意見を踏まえての都市像の考え方、重点プロジェクトの修正点についてご説明させていただいた後、前期基本計画に掲げる分野別施策の内容に入っていきます。この分野別施策は、これまで皆様にご審議いただい

た基本構想を土台として、都市像の実現に向けて取り組むべき各種施策を分野別に掲げたものであり、基本構想や重点プロジェクトよりも具体的な内容となっています。第6次長期総合計画において、前期基本計画に掲げるこれらの施策は、基本構想に掲げる都市像や将来の基本目標の達成に向け、しっかりとしたまちづくりの基礎を創り上げるための、始まりの5年間に取り組むべき重要な内容となります。

分野別としておりますが、単独の分野だけではなく、横断的な視点も必要となりますので、委員の皆様には、それぞれの知見を基にした、忌憚のないご意見を賜りますようお願い申し上げます、開会にあたってのご挨拶とさせていただきます。

本日は、どうぞよろしくお願いたします。

○審議会への市長の同席について

市長あいさつ後、柳井会長より、審議会への市長の同席について、以下のとおり発言があった。

[柳井会長]

議事に入る前に、黒須市長の本会議への同席について、前回事業、委員の皆さんに意見を伺いたい。本日の議事は、基本計画（案）についてであり、各分野の具体的な内容となるため、黒須市長には前回事業、審議会の決定として、このまま出席をいただきたいと思うが、いかがか。

⇒ 委員からの異議はなく承認されたため、審議会より市長の同席が求められ、市長は会議終了まで同席した。

5 報告

(1) RESASを活用した施策立案プロジェクトチーム活動報告

【資料「RESASプロジェクトチームによる施策立案報告書」】

若手市職員で構成されるRESASプロジェクトチームより、資料に基づき報告を行った。このことに関する質疑等は以下のとおりであった。

[齋藤(善)委員]

A案「角田市版関係人口創出事業」について、情報発信はとても大事なであると感じており、メディアへの露出度のようなかたちでKPIを設定して捉えていくことはできないか。また、B案「地域ビジネス創出事業」についても、将来の角田ファンをつくるという意味で重要であると感じている。是非とも継続して検討を進めていただきたい。

[柳井会長]

市民ワークショップの中では、角田市で育った子どもが高校を卒業するまでの間に輝きのある生活を送れるかというテーマが掲げられていたが、今回の報告でも高校生の活躍の場を創出するという提案があり、非常に心強く感じた。単に市の施策ということではなく、小中学校や民間企業など、関係者と連携しながら進めていくと実現性が高まるものと思われる。

また、こういう取組み自体が学校の教材化に繋がり、お互いのシナジー効果が得られてくると、この取組みの意味が高まってくると思われる。今回だけに止まらず、今後も様々な意見具申を行っていただきたい。

- (2) **第6次長期総合計画策定経過報告【資料「角田市第6次長期総合計画策定経過」】**
資料配布のみとし、説明は割愛した。このことに関する質疑等はなかった。

6 議事

角田市長期総合計画審議会条例第5条第1項の規定に基づき、柳井会長が議長となり議事進行を行った。

- (1) **第6次長期総合計画基本構想(案)について【資料1】**

基本構想第4章について、事務局(木村まちづくり政策課長)より、資料に基づき説明を行った。このことに関する意見等は以下のとおりであった。

[菅原委員]

「第2節 角田市の都市像」の冒頭、「今後、人口減少が加速し、2065年には約15,000人まで人口が半減していきます。」という文章について、「半減していきます」という表現を「半減していくことが想定されます」など、もう少し柔らかくした方がよいのではないか。人口減少時代を迎えないようにするための計画であるにも関わらず、人口減少が前提となっている言い回しであると感じる。

[木村まちづくり政策課長]

以前示した「人口ビジョン」に基づいた表現であり、人口減少が避けられないという現実を市民の皆さんに強く意識してもらおうという意味合いもある。表現については再度検討する。

[柳井会長]

全国的には自治体の計画はダウンサイジングの傾向が強くなってくると思われる。

[毛利委員]

都市像の「咲き誇る」という表現がもう終わるイメージが強く、もっと未来に向けて続いていくようなニュアンスが欲しかった。

[黒須市長]

決して終わるというイメージでこの表現にしたわけではなく、続いていくイメージで設定したものであるが、もう少し検討する時間をいただきたい。

[砂金委員]

都市像にある花のマーク「✿」が表す意味について改めて伺いたい。

[黒須市長]

この花のマークには、敢えて「何の花だろう」という疑問を持たせることで、この都市像に興味を示してもらおうという意味合いがある。また、メールなどで使用される絵文字を取り入れることで、ポップなイメージを持ってもらおうということである。決して特定の花をイメージしているわけではないが、改めて検討したい。

[柳井会長]

この都市像には、多様性がある人たちが集まってハーモニーを作っていくという意味があり、まちには様々な人たちがいるという象徴とも考えられ、個人的にはこの都市像には納得感がある。

(2) 第6次長期総合計画前期基本計画(案)について【資料2】

重点プロジェクト及び分野別施策(第1章、第2章、第4章)について、事務局(木村まちづくり政策課長、齋藤企画調整係長)より、資料に基づき説明を行った。このことに関する意見等は以下のとおりであった。

■重点プロジェクトについて

[堀米委員]

1 ページ「1. 主体的活動市民の育成・支援」の「主体的活動市民」という言葉について、聞き慣れないためもう少し分かりやすい表現にした方がよい。また、それに続く文章について、一つの文章として非常に長く、理解しづらいので、もう少し言葉を整理し、複数の文章に区切るなど、分かりやすい表現に修正した方がよい。

[木村まちづくり政策課長]

「主体的活動市民」という表現と文章の構成について、再度検討する。

[柳井会長]

他自治体で使われている同様の表現も参考にした方がよい。

[高橋委員]

6 ページ「6. スポーツによるまちづくり」の文章中「する・みる・ささえるスポーツ」の「する」という表現は標準語か。

[木村まちづくり政策課長]

「スポネットかくだ」ですでに使用している表現であり、このままとさせていただきたい。

[高橋委員]

「令和」の「れい」という字は、「令」ではなく「令」を使用すべきではないか。

[木村まちづくり政策課長]

「令和」の表記については、総務省から公文書等の取扱いではどちらを使用しても構わないと示されており、どちらを使用しても誤りではないと考えている。

[高橋委員]

誤りではないとしても統一はすべきと考える。

[戸田委員]

6 ページ「6. スポーツによるまちづくり」の文章中に「日常における身体活動」の例えとして「畑仕事」とあるが、畑仕事をする人はごく一部に限られることから、例としては不適切ではないか。

[木村まちづくり政策課長]

ここでいう「畑仕事」は、農業を生業としている方の仕事を意味しているわけではなく、普段の生活における肉体的な労働もスポーツにつながるということを表現したもののだが、分かりづらいうであれば再度検討する。

[柳井会長]

体育とスポーツの定義は全く違うもので、ここではスポーツに繋がっていることから、ジョギングなどはいいが、畑仕事は適さないと感じる。再度検討した方がよい。

[佐藤委員]

7 ページに数値目標として「交流人口」を設定しているが、先ほどのRESASプロジェクトチームからの報告にもあった「関係人口」を設定してもよいのではないかと感じた。

[木村まちづくり政策課長]

関係人口の創出を推し進める方向性ではあるが、関係人口を的確に捕捉することができておらず、従前より指標として設定してきた交流人口の一部も関係人口になり得ることから、関係人口の進捗度合を測るという視点で交流人口を数値目標に設定したものである。

[堀米委員]

2 ページの数値目標「角田市民であることを誇りに思う市民の割合」について、現状値はなく、中間値 40%、目標値 50%としているが、目標はもっと高くてもよいのではないかと感じた。目標値の設定根拠はあるのか。

[木村まちづくり政策課長]

市民意識調査の中で「角田市民であることを誇りに思う市民の割合」を測る直接的な設問はないが、それに近いものとして行政全体の満足度や暮らしやすいと思っている市民の割合、住み続けたいと思っている市民の割合などがある。令和2年度に実施した市民意識調査では、行政全体に満足している市民の割合は 34%、暮らしやすい・住み続けたいと思っている市民の割合は6割程度という結果であり、これらの結果を参考として、誇りに思う市民の割合の目標値を設定したものである。

[柳井会長]

同規模程度の自治体のアンケート結果を参考にするやり方もある。

[堀米委員]

満足度と誇りに思う市民の割合はニュアンスが違う。この目標値だと角田市民が自分たちのことをこんなに誇りに思っていないんだなと感じてしまうので危険だと感じた。地域愛があるからこそ不平不満があるという考え方もあるので、満足度を参考にするのは適切ではないと考える。50%以上からスタートし、それ以上の数値を目標値とした方がよい。

[木村まちづくり政策課長]

前向きに検討する。

[遠藤(恵)委員]

6 ページ「6. スポーツによるまちづくり」の文章中「元気な子どもの育成」という表現について、「スポーツ＝元気」はいいのだが、身体が整うと心も整うという考えのもと、「心身ともに健やかな」という表現がよいのではないかと感じた。

[木村まちづくり政策課長]

再度検討する。

■分野別施策「第1章 安全・安心」について

[日下委員]

消防白書でも示されている消防団員の高齢化、団員数の減少への課題対応策は妥当であると考えている。避難所の設営・運営における分野別のライン確保については、まだ具体化されていない部分があるが、現状はこのようなかたちでよいと思われる。

■分野別施策「第2章 保健・医療・福祉」について

[安藤副会長]

地域包括ケアシステムや地域共生社会は、高齢者、障害者、子どもなど、様々な市民が自分らしく安心して暮らせるようなシステムということであり、それらの仕組み構築のためには、この第2章に掲げる施策がとても大事になってくる。

制度ですべてを網羅することは難しいことから、地域包括ケアシステムという仕組みは地域のみinnで支え合うということが必要であり、市民力という考え方や地域ボランティアなどの要素をうまく取り入れながら、施策をまとめていただきたい。

[齋藤(善)委員]

17 ページ「(2) 疾病・感染症予防の推進」にかかるKPIとして「胃がん検診受診率」を設定しているが、設定した背景について伺いたい。疾病の予防という観点であれば、健康診断結果における有所見率などもKPIになり得るのではないかと。

[高橋市民福祉部長]

本市の胃がん検診受診率は県内でも上位に位置していることから、さらに引き上げて疾病予防を推進するという意味でKPIに設定した。ご指摘いただいた追加の指標については、検討の余地があると考えている。

[加藤委員]

18 ページ「(3) 地域医療体制の充実」について、産科、小児科が早急に必要で

あると認識しているが、K P Iとして設定している「市内産科医・小児科医数」の中間目標値がゼロというのはいかがなものか。

[黒須市長]

以前開催したグループ討議の中でも産科、小児科の招へいは最優先に取り組むべき課題であるとの意見があり、私もそのように認識しているが、現在閉院・休院している診療所の復活も含めた産科、小児科の招へいの実現可能性や、中核病院からの定期的な医師派遣、中核病院の設備活用などについて、安藤副会長にご意見を伺いたい。

[安藤副会長]

地元で産科、小児科があればよいと考えるが、一般論としていつでも安全・安心な出産を目指すとなると、一人の医師ではなかなか難しいとされており、又需給バランスの関係から経営的な面での課題も指摘されている。現在は、医療の集約化により医療体制の充実を図ることが全国的にも進められている。もちろんそのような中でも、開業してくれるという医師がいれば全面的にバックアップすべきだろう。今後、地域医療を目指すコンセプトで設立された医科薬科大学の卒業生が出てくることで、東北にも医師が増えまた人口が増加し出産や子供の数が増えるなど需要が高まっていくことを期待している。まず当面は中核病院に機能集約し地元の医療機関と連携する体制を整備していくことが現実的な対策であると考え。せめて中核病院で再開できればよいと思う。

[加藤委員]

ゼロであることが大変残念である。

[齋藤（勤）委員]

24ページ「(3) 学童保育・子どもの遊び場の充実」について、小学校の統廃合が進んでいる本市の現状を踏まえて、学童保育や子どもの遊び場を整備する単位をどのように考えているか。例えば角田地区であれば、児童公園などが位置付けられるのだろうが、小学校が統合された地域では遊び場そのものが無くなってきている。そうした現状を踏まえ、角田市全体で捉えてその機能を集約するなど、考えを伺いたい。

[木村まちづくり政策課長]

小学校が統廃合された地域における子どもの遊び場の確保などについて、地区別の具体的な案を示せるものはないが、検討していかなければならない課題であると認識している。

[玉淵教育次長]

学校の統廃合を進めざるを得ない状況の中で、各地域に子どもの遊び場を整備することは財政的に厳しく、ある程度地域を集約して捉えていくというのが現時点では想定される場所だが、これも財政状況をみながらの対応となる。

■分野別施策「第4章 まちづくり」について

[堀米委員]

37ページ「(1) 住民自治によるまちづくり」にかかるKPIとして「(仮) 市民活動支援センターへの年間相談件数」を設定しているが、相談件数ではなく積極的に支援していくという意味で支援件数としてはどうか。

[木村まちづくり政策課長]

市民活動支援センターのような機関を設置していないのは、県内市部では角田市だけという現状を踏まえ、市民力を発揮できる環境整備を進める観点からも必要な機関であろうと考えている。KPIについては、再度検討する。

[齋藤(善)委員]

41ページ「(1) 継続的なつながりの確保」の横断的な取組みとして「国内交流では、小学生の農村体験などを通じて、交流の機会を提供します。」とあるが、元々角田市は農村体験には比較的取り組んでいるとの認識から、先ほどRESASプロジェクトチームの報告にあった高校生と地域が協働したプロジェクトに絡めて、高校生との交流を深めていくような表現を付け加えてはどうか。

[木村まちづくり政策課長]

検討する。

[堀米委員]

関係人口と産業振興の両方に絡んでくるものと思われるが、外国人の受入れについて触れられていない。既に角田市内の大手企業で働いている外国人はいるが、担い手不足などの課題解決策の一つとして、優秀な外国人労働者の受入れが今後加速していくと思われることから、角田市としても積極的に外国人労働者を受け入れていくという方針を基本計画の中で打ち出した方がよいのではないかと。

[木村まちづくり政策課長]

関係人口と産業振興のどちらで検討するのが妥当なのかも含め、検討の余地があると思われるので、産業振興の分野を審議いただく際に、改めて議論いただきたい。

⇒ 以上の意見等を踏まえ、再度検討の必要があるとされた箇所を除き、概ね事務局の説明のとおりの内容で、この議事について承認された。

7 その他

特になし。

8 閉会

第7回角田市長期総合計画審議会委員出席者名簿

令和3年9月17日

No.	役職	氏名	所属等	構成区分	備考
1	会長	柳井 雅也	東北学院大学 教授	知識経験者	
2	副会長	安藤 由紀子	角田市医師会	知識経験者	
3	委員	遠藤 恵美子	角田光の子保育園 園長	知識経験者	
4	委員	遠藤 摂子	社会福祉法人 あけの星会 理事長	知識経験者	欠席
5	委員	遠藤 尚志	大河原地方振興事務所 地方振興部長	知識経験者	
6	委員	上條 徹	アイリスオーヤマ(株) マネージャー	知識経験者	
7	委員	菊地 恵美子	みやぎ仙南農業協同組合 理事	知識経験者	欠席
8	委員	齋藤 善宏	日立Astemo(株) 人財統括本部 HRシェアードサービス部 宮城総務課 課長	知識経験者	
9	委員	佐藤 和行	七十七銀行 角田支店 支店長	知識経験者	
10	委員	菅原 満	国立研究開発法人 宇宙航空研究開発機構 角田宇宙センター 角田管理課 課長	知識経験者	
11	委員	戸田 宏士	戸田宏士司法書士事務所	知識経験者	
12	委員	堀米 荘一	合同会社あぐりっとかくだ 代表社員	知識経験者	
13	委員	松本 篤志	連合宮城仙南地域協議会 角田地区会議 議長	知識経験者	欠席
14	委員	砂金 甚一	角田市社会教育委員	公共的団体の役員	
15	委員	遠藤 清子	角田市民生委員児童委員協議会 西根地区会長	公共的団体の役員	欠席
16	委員	小野 孝子	角田市統計調査員協議会 会計	公共的団体の役員	
17	委員	小野 陽子	角田市各種女性団体連絡協議会 監事	公共的団体の役員	欠席
18	委員	加藤 泰彦	角田市商工会 会長	公共的団体の役員	
19	委員	日下 三郎	角田消防署 署長	公共的団体の役員	
20	委員	齋藤 勤	角田市環境衛生組合連合会 前会長	公共的団体の役員	
21	委員	島津 恵美	角田市民生委員児童委員協議会 主任児童委員部長	公共的団体の役員	欠席
22	委員	高野 絹子	角田市商工会 女性部 副部長	公共的団体の役員	
23	委員	高橋 輝昭	角田市行政区長連絡協議会 会長	公共的団体の役員	
24	委員	武智 照道	角田市行政経営推進委員会 委員長	公共的団体の役員	
25	委員	毒島 弘美	角田市教育委員会 委員	公共的団体の役員	欠席
26	委員	毛利 良子	角田市芸術文化振興会 顧問	公共的団体の役員	
27	委員	渡邊 峰雄	角田市スポーツ協会 理事長	公共的団体の役員	

第7回角田市長期総合計画審議会における策定本部・事務局出席者名簿

令和3年9月17日

策定本部

No.	役職	職	氏名	備考
1	本部長	市長	黒須 貫	
2	委員	総務部長	中村 方彦	
3	委員	市民福祉部長	高橋 正明	
4	委員	産業建設部長	小湊 洋司	
5	委員	教育次長	玉渕 和紀	
6	委員	財政課長	大槻 信一	

事務局

No.	職	氏名	備考
1	まちづくり政策課 課長	木村 信幸	
2	まちづくり政策課 課長補佐	齋藤 学	
3	まちづくり政策課 企画調整係 係長	齋藤 謙	
4	まちづくり政策課 企画調整係 主査	渡辺 寛大	
5	まちづくり政策課 企画調整係 主査	安達 宗平	
6	まちづくり政策課 企画調整係 主事	佐々木 あづさ	

角田市第6次長期総合計画策定支援業務委託業者

No.	職	氏名	備考
1	七十七リサーチ&コンサルティング(株) 調査研究部 上席研究員	木村 暢男	
2	七十七リサーチ&コンサルティング(株) 調査研究部 上級研究員	皆川 乾介	